A27 ユスリカ成虫の一採集法

○鈴木 博（長大・熱研）・小林 貞（環境福祉研）・佐々 学（環境福祉研）

A collection method of adult Chironomidae**Suzuki, H., Kobayashi, T. and Sasa, M.**

私共は日本各地のユスリカ相について調査中である。従来、ユスリカ成虫の採集法は、ライトトラップ、自動販売機などの灯火、捕虫網採集の他に幼虫の生息場所の泥土などを採取し、これらから羽化してくる成虫を採集する方法などがある。今回の採集方法は、水の中の落葉を採取し、容器に入れて室温に放置しただけの簡便な方法で多種のユスリカを採集する方法である。これまで、西表島、鹿児島、長崎などでこの方法を用いて採集しているが、長崎の一調査例では、一河川の10ヶ所で1ヶ所30枚の落葉を採取して羽化したユスリカは13属14種92個体であった。本法は、ネットやライトトラップなど雨天の場合採集不可能な時にも採集が可能であり、九州地方など採集数が極めて少ない夏季に捕虫網では採集されない時にも成虫が得られるなど、これまでの採集法にはない特徴を有している。

A28 ある下水処理場で観察されたユスリカの群飛行動

○緒方一喜・佐々学（環境福祉研究所）

The swarming behavior of chironomid midges observed
in a sewage treatment plant

Ogata K. and Sasa M.

黒部市の下水処理場において、1997-98年に場内外におけるユスリカの発生動態を調査したが、その際に多種多様の群飛行動を観察したので報告する。通年にわたって放流口付近で *Chironomus yoshimatsui*, 親水公園で *Paratrichocladius rufiventris* を、季節的に仁助川等で *Rheotanytarsus kyotoensis* を優占種とするカ柱が観察された。そして、種によって竜巻型・煙幕型・円柱型等の特徴的な形態を示した。それぞれの種は1種で過占されたが、単一種集団ではなかった。水平方向・垂直方向の近距離で同時に別種のカ柱のすみわけが見られた。性比は常に雄が多く 3.1 - 62.4 の間にあった。*C. yoshimatsui* の群飛行動には顕著な日周期性が見られ、日の出・日没時に活動のピークが見られた。